

2013年度 金城学院大学 キリスト教の時間

落 合 建 仁*

2013年11月7日16時45分から、金城学院大学ランドルフ記念講堂にて、「2013年度 金城学院大学 キリスト教の時間 Vol. 2」として、「^{ジョンチャヌ}丁讚宇氏ヴァイオリンコンサート『君は愛されるために生まれた』——2001年1月東京・JR大久保で起こった事故に想う——」が行われた。

演奏して下さった丁讚宇氏の経歴は以下の通りである。5歳よりヴァイオリンを始め、桐朋学園大学からパリ国立高等音楽院へ留学。同音楽院を主席で卒業。同大学院修了後、韓国国立交響楽団、東京交響楽団、KBS交響楽団などの首席コンサートマスターを歴任。1988年より韓国延世大学教授就任。世界各地でオーケストラとの共演、室内楽、リサイタルなどを行い絶賛を博す。2000年、日本を拠点に活動を再開。6月8日、朝鮮半島で初めて実現した南北首脳会談を記念しての南北統一コンサート（ユニティコンサート）を開催し、日本および韓国のTV局、新聞社、雑誌社に取り上げられ日本全国から大きな反響を呼んだ。2001年、1月26日JR新大久保駅での事故で命を落とされた^{イ スヒョン}李秀賢さん、関根史郎さんを偲んで追悼コンサートを行う。同年8月には広島と長崎で原爆犠牲者追悼コンサートを行うなど、常に“いのち”“愛”“平和”への願いを込めたコンサートを続けている。また、ピアノ伴奏は武田香奈子氏で、7歳よりピアノを始め、桐朋学園大学音楽科ピアノ科を卒業後、室内楽やソロ活動で活躍されている（以上、当日配布のプログラム冊子より）。

* 金城学院大学文学部宗教主事、講師

当日演奏された曲目は全8曲であった。(1)「白鳥の湖」(チャイコフスキー作曲)、(2)「ノクターン」(ショパン)、(3)「我が母の教え給いし歌」(ドボルザーク)と続き、(4)「愛の喜び」(マルティーニ)はプログラムに印刷されていなかった曲であるが、丁氏は、作曲者名と曲名に偽りがあることを現代日本の食品偽装事件と絡ませつつ、親しみを持たせながら紹介して下さった。

その後、丁氏は「はたして自分だったら線路まで降りて助けることができたでしょうか、今でも思う」と、新大久保駅乗客転落事故について語り始められた。多くの学生たちにとってそれは、まだ小さい頃に起きた事故ゆえ記憶に残っていない場合も多いのであるが、本演奏会の直前に、JR横浜線の踏切内に横たわる男性を助けようとした女性が電車にひかれた死亡事故(2013年10月1日)があり、それと重ね合わせた学生も多かったようである。丁氏は、隣人が不幸になった時に助けること(隣人愛)がキリスト教の真髄であるが、この事故を契機に牧師から勧められて、また西洋音楽を理解するためにも、聖書を読むようになり、自分のためにイエスは命を投げ出して十字架に掛られたのだと実感、洗礼を受けたと証しをされた。受洗後は、イエスが常に励まし共にいて下さることを実感するようになり、演奏前の恐怖心などにも打ち勝つようになったという。そして、学生たちに向けて、今後、勉強や社会に出て様々な辛い場面に直面した時、ぜひイエスと向きあってほしい、そうすれば力を与えられるであろうと語りかけられた。このお話の後、イエスの生涯を辿るように、イエス誕生の奇跡と十字架の悲劇を映し出す(5)「アヴェ・マリア」(カッチーニ)と(6)「アダージョ」(アルビノーニ)、そしてイエスの復活を喜ぶ(7)「ハレルヤコーラス」(ヘンデル)の演奏がなされた。演奏会は最後、(8)「チャルダッシュ」(モンテイ)で拍手喝采の中、閉じられた。

最後に、一学生による当日の感想の一部を紹介したい。「丁氏のように、新大久保駅の事故に影響を受けた人は他にも数多くいるだろう。隣人愛の

難しさ、そして隣人愛の素晴らしさを日本中の人が感じたはずだ。隣人愛の素晴らしいところは、隣人愛を目の当たりにした他の人にも、愛が広がっていくことだと私は考える。丁氏のヴァイオリンの演奏には、技術だけではなく愛があふれているように感じた。私自身も他の人に愛を広げていけるような存在になりたい」。丁氏の演奏と存在に触れた多くの学生に愛が伝わり、そして伝える者へと変えられること、また丁氏のこれからのイエスの愛を証しする演奏活動の上に、主なる神の導きを祈りたい。

